

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 所長

平成 1 7 年度病害虫発生予報第 2 号について
平成 1 7 年度病害虫発生予報第 2 号を発表したので送付します。

平成 1 7 年度病害虫発生予報第 2 号

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

発生予報の概要

作物名	病害虫名	発生量の 平年比	記載ページ
早期水稲	葉いもち 斑点米カメムシ類	並	2 2
普通期水稲	葉いもち スクミリンゴガイ		2 2
野菜・工芸作物全般	アブラムシ類 ハスモンヨトウ	並 並	3 3
施設野菜	土壌病害 コナジラミ類		3 3
冬春トマト	トマト黄化葉巻病 (TYLCV)		3
果樹全般	果樹カメムシ類	やや少	3
かんきつ	そうか病	並	4
	かいよう病	並	4
	黒点病	やや少	4
	ミカンハダニ	多	4
	ミカンハモグリガ	並	4
アブラムシ類	やや多	4	
茶	炭疽病	並	5
	輪斑病	並	5
	カンザワハダニ	やや多	5
	チャノコカクモンハマキ	並	5
	チャハマキ	並	5
	チャノホソガ	やや多	5
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	5
	チャノキイロアザミウマ	並	6
クワシロカイガラムシ	多	6	

作物の生育状況 (5月中旬)

早期水稲は 5 月 2 半旬～3 半旬にかけて好天が続き、茎数が過去 5 か年平均より多くなった。温州ミカンは落弁期～果実肥大期、茶は 1 番茶収穫後の整枝期であった。

6 月の気象予報

向う 1 か月の天候は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温・降水量・日照時間は平年並と予想されている。(1 か月予報 鹿児島地方気象台 5 月 2 0 日発表)

発生予報の根拠および防除対策

早期水稲

1 葉いもち（並）

[予報の根拠]

- 1) イネの草丈は平年よりやや低く、茎数は平年よりやや多、葉令は平年より2日程度遅れている。
- 2) 5月中旬の巡回調査では発生未確認である。
- 3) 6月の天候は平年と同様に雨や曇りの日が多く、気温・降水量・日照時間とも平年並と予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 曇雨天が続く場合はあらかじめ粒剤を水中施用するか、または葉いもちの早期発見に努め、病斑が認められたら直ちに粉剤または液剤で防除する。
- 2) 同一系統の薬剤の連用は、薬剤耐性菌が発生しやすいので避ける。

2 斑点米カメムシ類（-）

[防除上の注意]

- 1) 米の上位等級確保のためには、穂揃期とその7～10日後の2回防除が必要である。
- 2) 出穂の早い、又は遅い水田には集中的に飛来する恐れがあるので注意する。
- 3) 早期米の等級格付け低下の主因はカメムシ被害によるもの（H15産では60.0%、H16産では80.8%）であるので、必ず防除を実施する。

普通期水稲

1 葉いもち（-）

[防除上の注意]

- 1) 育苗期の発生に注意し、本田への持ち込みを防止する。
- 2) 育苗箱施薬は予防的効果が高く、本田での第一次伝染と生育初期の蔓延を防止するので必ず実施する。特に長期残効型箱施薬剤は持続効果が約80日と長く、省力的でもある。
- 3) 6月の天候は平年と同様に雨や曇りの日が多く、気温・降水量・日照時間とも平年並と予想されている。
- 4) 補植用の取り置き苗は葉いもちが発生しやすく、本田への伝染源になりやすいので補植が終わったら処分する。
- 5) 育苗箱施薬を実施していない場合、曇雨天が続くときはあらかじめ粒剤を施用するか、葉いもちの早期発見に努め、病斑が認められたら直ちに粉剤または液剤で防除する。
- 6) 同一系統の薬剤の連用は、薬剤耐性菌が発生しやすいので避ける。

2 スクミリンゴガイ（-）

[防除上の注意]

- 1) 水稲の被害は、田植え直後から3週間に著しく、その時期に深水状態ほど食害が激しいので、活着後は浅水管理とする。
- 2) 貝の生息数が多い場合は、捕殺するか粒剤の水面施薬を行う。
- 3) 粒剤の水面施薬に際しては、水深が3cm程度になるように調整し、少なくとも4日間はかけ流し、落水はしない。

野菜・工芸作物全般

1 アブラムシ類 (並)

[予報の根拠]

1) 黄色水盤トラップ(佐土原)による誘殺数は平年並に推移している。

2 ハスモンヨトウ (並)

[予報の根拠]

1) フェロモントラップ(都城、西都、佐土原)による誘殺数は平年並に推移している。

施設野菜

1 土壌病害 (-)

[防除上の注意]

1) 土壌病害のみられたハウスでは、収穫後被害残さを施設外に持ち出し焼却処分する。また、ハウス内は耕起を行って残さの分解を早めることが重要である。

2) 昨年は台風襲来等の影響により土壌消毒が十分にできなかったほ場で、PMMoVや青枯病等の土壌伝染性病害が多発した例が見られたことから、今作終了時に土壌病害虫の発生状況を十分観察し、適切な防除に努める。

2 コナジラミ類(シルバーリーフコナジラミ) (-)

[防除上の注意]

1) 近年、施設果菜(主としてトマト・ピーマン)でコナジラミ類が増加傾向にある。

2) 栽培終了後は、野外へ拡散し、地域での密度増加、トマト黄化葉巻病ウイルス(TYLCV)の拡散・次期作の伝染源となる可能性が高い。

3) コナジラミ類発生ほ場では、栽培終了後10日間程度施設を密閉するなど防除の徹底を図る。

冬春トマト

1 トマト黄化葉巻病(TYLCV) (-)

[防除上の注意]

1) トマト黄化葉巻病はシルバーリーフコナジラミによって伝染するので、発病株は見つけ次第抜根し、ほ場から持ち出し埋没処分する。

2) 栽培終了後は株を抜き取り、10日間程度施設を密閉してシルバーリーフコナジラミを死滅させた後、残さを処分する。

3) ほ場内及び周辺の雑草はシルバーリーフコナジラミの寄主植物となるので、除草を徹底するとともに、産地等では一斉除草などにより地域全体の媒介虫(シルバーリーフコナジラミ)の密度低下に取り組む。

果樹全般

1 果樹カメムシ類 (やや少)

[予報の根拠]

1) 5月第4半旬までの調査では、県内の4地点に設置した予察灯への飛来が認められず、平年よりやや少ないと考えられる。

[防除上の注意]

1) 果樹カメムシ類は園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動する。多飛来を見てからの防除では手遅れとなるので、園内外を見回り、早期発見、早期防除に努める。

2) 成熟・着色の早い果実を集中加害する傾向があるので注意する。

1 そうか病 (並)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の発生面積率4.8%(平年7.0%)は平年並、発病葉率0.3%(平年0.5%)は平年並である。

2) 6月の気温・降水量・日照時間は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

1) 防除適期は幼果期である。

2 かいよう病 (並)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の発生面積率0.0%(平年3.7%)、発病葉率0.1%(平年0.3%)は平年並である。

2) 6月の気温・降水量・日照時間は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

1) 梅雨期に予防散布する。

2) ミカンハモグリガの防除に務める。

3 黒点病 (やや少)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の発生面積率4.8%(平年25.0%)、発病葉率0.3%(平年4.1%)はやや少である。

2) 6月の気温・降水量・日照時間は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

1) 防除適期は幼果期、梅雨期であるが、降水量が多いほど発生が多くなるので、前回防除してからの積算降水量300mmを農薬散布間隔の目安として予防散布する。

4 ミカンハダニ (多)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の発生面積率23.8%(平年18.5%)は平年よりやや多、寄生葉率6.0%(平年1.6%)は平年より多である。

[防除上の注意]

1) 生息密度が高くなると防除が困難になるので、寄生葉率30%(1葉当たり虫数0.5~1頭)を目安に防除を行う。

5 ミカンハモグリガ (並)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の発生面積率9.5%(平年8.9%)、寄生葉率0.2%(平年0.3%)は平年並である。

[防除上の注意]

1) かいよう病の発生を助長するので、新梢伸長期間中は定期的に防除する。

2) 成虫の活動は夜間で、日中は葉裏に潜んでいるので、樹全体の防除が効果的である。

6 アブラムシ類 (やや多)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の発生面積率80.9%(平年46.3%)、寄生梢率14.9%(平年6.1%)は平年よりやや多である。

[防除上の注意]

1) 成木園では異常発生の場合を除いて防除の必要性はほとんどない。

2) 中晩柑類ではウイルス病(CTV等)を媒介するので留意する。

茶

1 炭疽病 (並)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の発生面積率16.7%(平年24.7%)、 m^2 当たり病葉数0.25枚(平年1.1枚)は平年並である。

2) 6月の気温・降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

1) 2番茶の萌芽期に防除する。

2 輪斑病 (並)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の巡回調査では発生未確認である。

2) 6月の気温・降水量は平年並と予想されている。

[防除上の注意]

1) 病原菌は摘採時にできた葉や茎の傷口から侵入する。摘採後、早く薬剤散布するほど防除効果が高いのでできるだけ摘採当日に防除する。摘採後4日以降の防除では効果がない。

3 カンザワハダニ (やや多)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の発生面積率58.3%(平年51.3%)は平年並、寄生葉率5.3%(平年4.8%)は平年よりやや多い。

[防除上の注意]

1) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のロ-テ-ション散布を実施する。

4 チャノコカクモンハマキ (並)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の巡回調査では発生未確認である。

[防除上の注意]

1) フェロモントラップ調査では、昨年同様平年より早い4月3~4半旬に発蛾最盛期があり、次回の発蛾最盛期は平年より早く6月2半旬頃と考えられる。

2) 顆粒病ウイルスによる防除適期は、6月の発蛾最盛期の10日後である。

5 チャハマキ (並)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の発生面積率8.3%(平年4.0%)、 m^2 当り巻葉数0.1枚(平年0.1枚)は平年並である。

2) 次回の発蛾最盛期は6月3半旬頃と考えられる。

[防除上の注意]

1) チャノコカクモンハマキの発蛾最盛期と10日以上差がなければ、チャノコカクモンハマキと同時に防除する

6 チャノホソガ (やや多)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の発生面積率33.3%(平年4.0%)は平年よりやや多、 m^2 当り巻葉数1.8枚(平年0.1枚)は平年より多である。

[防除上の注意]

1) 都城での次回の発蛾最盛期は6月4~5半旬頃と予想される。防除適期は発蛾最盛期の約10日後である。

2) 脱皮阻害剤は遅効性なので卵期に散布する。

7 チャノミドリヒメヨコバイ (並)

[予報の根拠]

1) 5月中旬の払い落とし調査による発生面積率8.3%(平年19.3%)は平年並、払

い落とし虫数0.3頭(平年0.6頭)は平年よりやや少ない。

[防除上の注意]

- 1) 萌芽直後から1、2葉期を重点に防除する。

8 チャノキイロアザミウマ (並)

[予報の根拠]

- 1) 5月中旬の払い落とし調査による発生面積率66.7%(平年55.3%)、払い落とし虫数5.1頭(平年5.1頭)は平年並である。

[防除上の注意]

- 1) 例年、2番茶期から発生が増えてくるので注意する。

9 クワシロカイガラムシ (多)

[予報の根拠]

- 1) 5月中旬の発生面積率50.0%(平年13.4%)、寄生株率17.5%(平年3.8%)は平年より多である。

[防除上の注意]

- 1) 最近、増加傾向にあるので発生を確認したら早めに防除する。
- 2) 第2世代幼虫の防除適期は幼虫ふ化開始から1週間後、または幼虫ふ化最盛期であるが、第1世代の幼虫ふ化は平年より4~5日早くなっているため、ふ化状況をよく観察し防除する。
- 3) 薬剤散布は、枝幹に十分かかるように適切な量をていねいに行う。

その他

- 1 農薬適用の有無などについては次のホームページで確認する。
日本植物防疫協会ホームページ <http://jppn.ne.jp>
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp/nouyaku/>
- 2 農薬の使用に当たっては、農薬使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。
特に水質汚濁性農薬ベンゾエピソ剤(商品名、リックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。
- 3 発生量(程度)の区分
多 い (高 い) やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多い (やや高い) 平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並 平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少ない (やや低い) 平年並の外側20%の度数の入る幅
少ない (低 い) やや少ないの外側10%の度数の入る幅
(平年値は過去10年間の平均)

4 予察情報の種類

病害虫防除・肥料検査センターから発表する情報は次の5つです。

- 1) 予報……向こう1か月の発生状況を予測し、毎月25日前後に発表する。
- 2) 注意報……主要な病害虫の多発生が予想され、かつ早めに防除が必要な場合に発表する。
- 3) 警報……主要な病害虫の大発生が予想され、かつ緊急に防除が必要な場合に発表する。
- 4) 特殊報……県内で初めて発生を認めた病害虫がある時や、病害虫の発生様相が特異な時に発表する。
- 5) 防除情報……注意をうながす必要がある病害虫の発生状況や、各種の防除技術指情報について随時発表する。(従来の防除速報にあたる)

お知らせ(<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除・肥料検査センターでは、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を登録しています。ぜひご利用ください。

【文書取扱】

病害虫防除・肥料検査センター 櫛間
TEL:0985-73-6670 FAX:0985-73-7499
E-mail:kushima-yoshiyuki
@pref.miyazaki.lg.jp